

SWOT 分析を援用した大学生活の設計と社会への意見発信 —スタディスキルズでの試み—

井形 元彦

(受領日：2013 年 4 月 30 日)

高知工科大学 教育講師室

〒782-8502 高知県香美市土佐山田町宮ノ口 185

E-mail:igata.motohiko@kochi-tech.ac.jp

要約：入学直後の1年生を対象としたスタディスキルズを担当する機会を得た。SWOT分析の思考を援用することで「大学生活をいかに過ごすか」を考えてもらうこととした。狙いは、「主体的に学んでいくために必要な能力」及び「社会人として生き抜くために必要な能力」を高めることである。さらに、「自分自身の生き方を考える」及び「社会に向けての意見発信」にも力点をおいた。本稿では、SWOT分析の概要とその援用の考え方、演習の実際、及び評価について述べた。

1. 背景

筆者は、製鐵会社及びソフトウェア会社を経て、2010年8月から高知工科大学に移った。企業生活から大学の世界に入ったこともあり、印象深いことが多いが、学生の印象は次のようになる。

- ・新入生は、当然のことながら、なんらかの夢をもって入学してきている。
- ・ただ、高校卒業まで教師など身の回りの人々の指導・指示の下で動いてきた学生が多いためか、自ら人生を自ら切り拓いていこうという気概が弱い印象がある。
- ・入学直後から、学生らは就職のことを考え始めるをえない雰囲気にも包まれている。つまり、大学は就職への一里塚とわりきっている感じもある。
- ・その一方で、就職活動を始めた時点で、自分は何者か、何に向いているのか、何をしたいのか、と「自分探し」を始める学生もいる。

そういう学生に対し、スタディスキルズ（専門科目とは異なった視点からの入学直後の教育）を担当する機会を得た。そこでの試みを紹介する。

2. 高知工科大学 学びの体系

高知工科大学での学びの体系を、図1に示す。専門教育の軸（基礎科目、専門科目、卒業研究、大学院）とキャリア教育の軸（スタディスキルズ、キャリアプラン基礎、キャリアプラン1、インターンシップ、キャリアプラン2）がある。

本稿で述べるスタディスキルズは、1年生を対象としたものである。

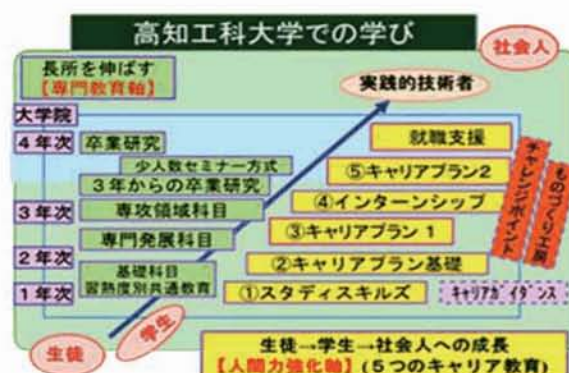


図1. 高知工科大学 学びの体系 (島¹⁾)

3. SWOT分析と援用の考え方

3.1 SWOT分析とは

大学生活における目標を設定し、それを実現するための行動計画を策定するために、SWOT分析の思考を援用した。

SWOT分析とは、1920年代からハーバードビジネススクールのビジネスポリシーコースの一部として開発されてきたものである。SWOTという名称は、Strengths（強み）、Weaknesses（弱み）、Opportunities（機会）、Threats（脅威）の頭文字をとっている。

宮川²⁾によれば、戦略とは戦の計りごとの意味であり、企業にとっての戦とは競争であるから、競争戦略が経営戦略の中核であるといえる。そして戦に勝つためには、敵（競争企業）と自分の力を十分よく知らなければならず、また戦場である市場についても行き届いた分析がなければならない。SWOT分析はそのような要求に応えようとするものであるとして、図2に示すSWOT分析をベースにした経営戦略策定のプロセスをモデル化して示している。

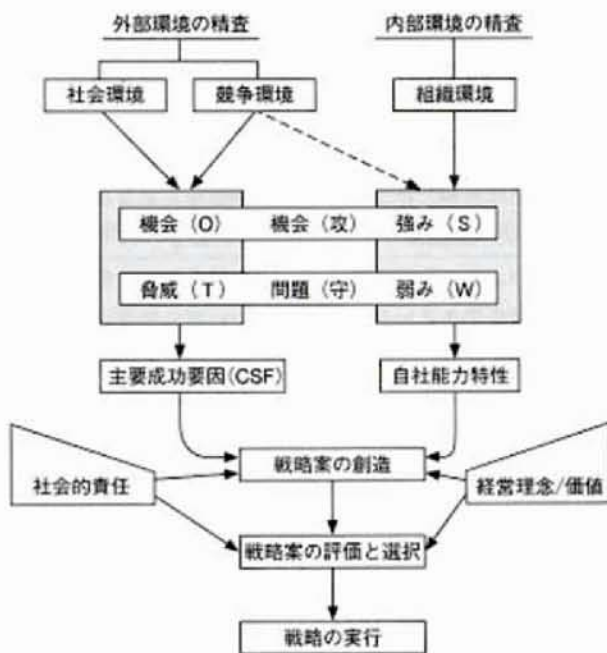


図2. 経営戦略策定のモデル

宮川²⁾は次のように解説している。SとWは自社組織の内部環境に目を向けて、自らの強みと弱みとを分析・評価することを意味する。OとTは、組織の外部環境に目を向けて、その中にある

ビジネス機会と、組織にとって脅威をもたらさうようなリスク要因とを分析・評価することを意味する。SWとOTとは相互に密接な関係にあることも注意しなければならない。自社の強みはそれを活かす市場機会に通じるし、弱みは外的環境からの脅威に結びつく。そしてSとOとは攻めの経営に、WとTとは守りの経営に関連する、としている。

3.2 SWOT分析の援用の考え方

自社を学生自身におきかえ、自らの内部環境（強み・弱み）を精査し、次に自分自身の外部環境（機会、脅威）を精査する。さらに、内部環境と外部環境を組み合わせ、大学生活の目標を達成するための戦略案を検討する。

宮川²⁾の経営戦略策定のモデルを意識して、SWOT分析がしやすいように、図3に示す思考フレームワークを学生のために用意した。

| 目標、目的設定シート | |
|------------|--------|
| 目標 | 目的 |
| 達成したい状態 | 本質的な理由 |
| | |

| 強み・弱みを自由にリストアップシート | |
|--|-----------|
| 目標達成にプラス | 目標達成にマイナス |
| (能力) ・コミュニケーション力 ・実行力 ・探究力 ・思考力 等々 | |
| (知識) ・英語 ・異文化理解等 | |
| (性格・性質) ・ | |
| ・資金 ・経費 ・人員 ・家賃 等々 | |

機会・脅威(個人の場合)
 ・目標達成に影響を与える外部要因-

| 目標達成にプラス | 目標達成にマイナス |
|----------|---------------|
| (例) 就職環境 | ・学主は厳しく選別される。 |
| | |
| | |
| | |
| | |

SWOTクロス分析シート

| | 機会(O) | 脅威(T) |
|-------|-------|-------|
| 強み(S) | | |
| 弱み(W) | | |

取組み案 評価シート

| 取組み | 実行可能性 | 効果 | 緊急度 | must/should |
|--------------|-------|-------|-------|-------------|
| (例) xxxxxxxx | 大,中,小 | 大,中,小 | 大,中,小 | must/should |
| 1. | | | | |
| 2. | | | | |
| 3. | | | | |
| 4. | | | | |
| 5. | | | | |
| 6. | | | | |
| 7. | | | | |
| 8. | | | | |
| 9. | | | | |
| 10. | | | | |

取組みスケジュール記入シート

| 取組み | 目標 (定量的値) | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 |
|------------|--------------|-----|-----|-----|-----|
| (例) 異文化力習得 | TOEICスコア | 650 | 700 | 800 | 800 |
| 1. | | | | | |
| 2. | | | | | |
| 3. | | | | | |
| 4. | | | | | |
| 5. | | | | | |

図 3. SWOT分析 思考フレームワーク

4. スタディスキルズ演習の実際

4.1 スタディスキルズで育成する能力
 高知工科大学では、育成する能力として、「主体

的に学んでいくために必要な能力」及び「社会人として生き抜くために必要な能力」を定めている。これらの育成を図りつつ、さらに、「人生を考えるきっかけ」を提供することとした。特に「人生、いかに生きるべきかを考えることの大切さ」に気付いてほしいという思いからである、さらに、受け身の行動から自律した行動への変化を促すことを狙い、「社会への意見の発信」の場も用意することとした。

4.2 育成能力と教育内容との対応
 「主体的に学んでいくために必要な能力」及び「社会人として生き抜くために必要な能力」と教育内容との対応を図4に示した。

4.3 教育の流れと各演習の関連
 4.3.1 大学生活の設計

取組みについて、その流れ・関連を図5に示した。各回(90分)、8回で実施している。ここでは、学生らが具体的に検討しやすいであろう、「大学生活の設計」をテーマとして、とりあげている。第8回「大学生活の目標・目的 発表」から第7回「取組み案の評価、スケジュール化」では、最初に演習の進め方・その背景を解説する。それを受けて、個人での思考時間を5から10分とった後に、5名前後のグループに分かれて40分程度、討議をしてもらう。1クラスは、合計15名前後の少人数である。

討議の進め方については、きめ細かくは指示せず、アウトプットしてほしいポイントと、既述の図3に示すSWOT分析の思考フレームワークを提示する。

学生らは、当初は戸惑うようであるが、回数を経ることで討議の要領を体得していく。また、高校時代までのように一つの正解があるわけではないこと、自分自身の考えをもつことの大切さを、最初に強調している。社会にでてからの課題というものの多くが、そうであるからである。

討議内容は、模造紙にまとめてもらい、毎回、異なったメンバがプレゼンテーションを行う。まとめる際の形式には制約はかけておらず、グループの創意に任せている。

ところで、第5回『強み』で『機会』・『脅威』に、どう取り組むか」に入る前には、自分のパーソナリティ・タイプを知っておくことが参考になると考え、簡易的なRIASEC診断を実施している。

| 井形スタディスキルズ | 主体的に学んで行くために必要な能力 | | | | 社会人として生き抜くために必要な能力 | | | | |
|------------------------|----------------------------------|---|---------------------------------------|--|-------------------------------------|-------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------------|
| | ①(書く能力)与えられた課題に対して自ら考え、論理的に記述できる | ②(調査・要約力)分らないことを資料やIT技術を用いて調査し、考察を交えてそれらをまとめる | ③(他者理解と自己表現力)他人の考えを理解し、相手に自分の考えを分からせる | ④(課題解決能力)与えられた事象から問題を発見し、より良い答えを導くことができる | ①(立ち位置の認識)自分が所属する地域や高知工科大学に関心と誇りを持つ | ②(自己コントロール)訪感に負けず心身ともに自分を律する力 | ③(社会理解と自立の心)社会の動きに関心をもち、自分の将来目標を設定して切り拓く | ④(挑戦の力)困難に遭遇しても立ち向かい、手段を駆使してやり抜く | ⑤(プレゼンテーションの力)自分の主張を大勢の前で分かりやすく発表できる |
| ①「大学生生活の目標・目的」作成&発表 | ● | | | | | | | | ● |
| ②-1「私の強み・弱み」の認識 | ● | | | ● | | | ● | | |
| ②-2「機会・脅威」の認識 | ● | ● | | ● | | | ● | | |
| ②-3取組み案の評価 | ● | | | ● | | | ● | | |
| ②-4取組みスケジュールの策定 | ● | | | ● | | | ● | | |
| ②-5最終報告レポート作成&発表 | ● | | ● | ● | ● | | ● | | ● |
| ③新聞の声欄に対する所感作成&発表 | ● | ● | ● | ● | | | | | ● |
| ④発表を聴いて質問・アドバイス | | | ● | ● | | | | | ● |
| ⑤信念を強くするには | | | | | | ● | ● | ● | |
| ⑥SSスキル自己診断 | ● | | | | | | | | |
| ⑦-1「レポートの書き方」 | ● | ● | | ● | | | | | |
| ⑦-2「文章の読み方」 | ● | | | | | | | | |
| ⑦-3「ノートのとり方」 | ● | ● | | | | | | | |
| ⑦-4「プレゼンテーションの基礎」 | | | ● | | | | | | ● |
| ⑧毎回、必ず出席し積極的に参加し、宿題に対応 | | | | | | ● | | ● | |

図 4. 育成する能力と教育内容

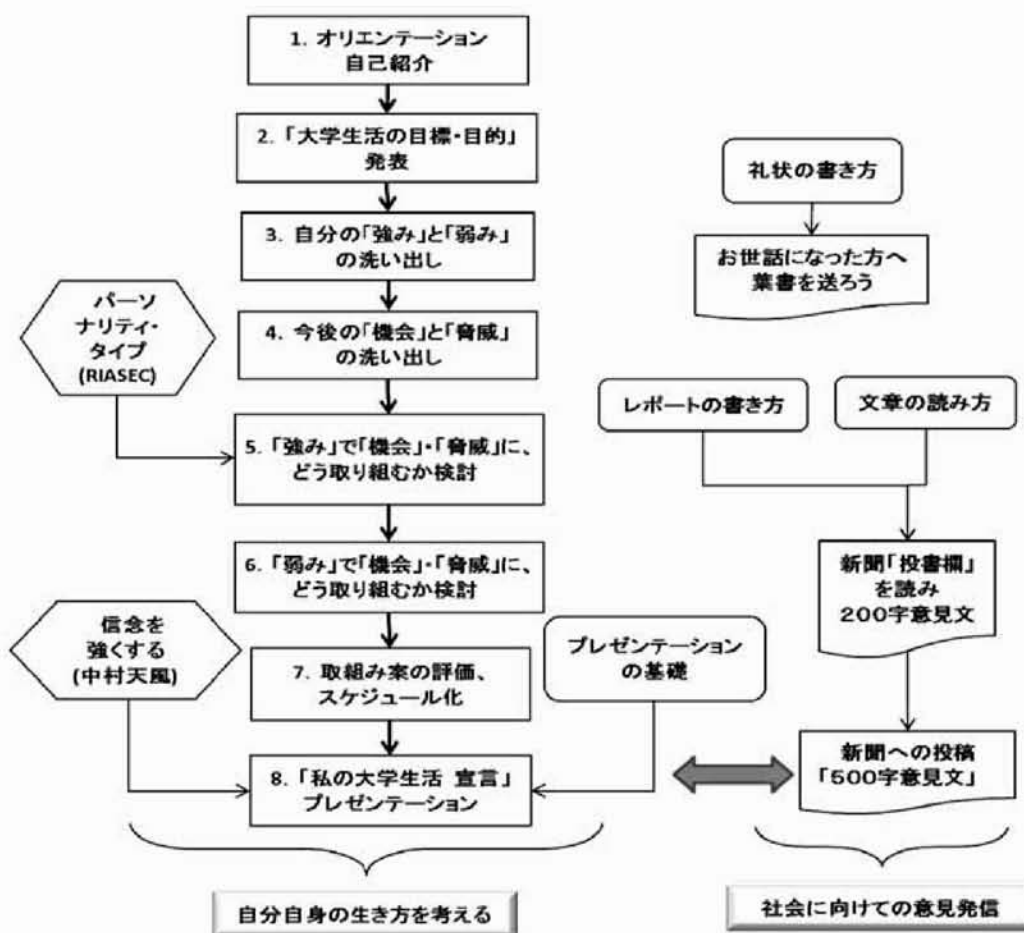


図 5. 教育の流れと各演習の関連

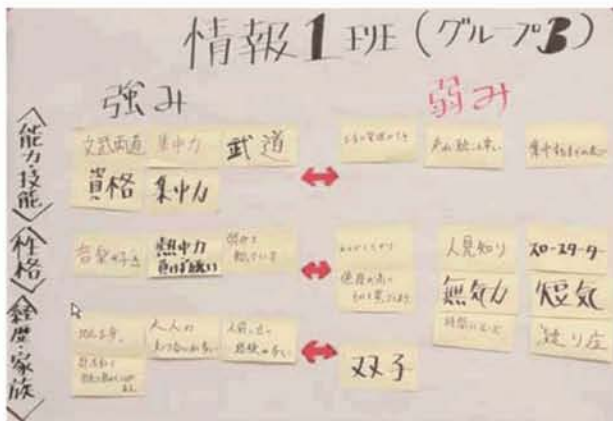
RIASEC 診断は、Holland が考え出した職業的興味のタイプを知る手法である。タイプとしては、Realistic(現実的)、Investigative(探求的)、Artistic(芸術的)、Social(社会的)、Enterprising(企業的)、Conventional(慣習的)がある。



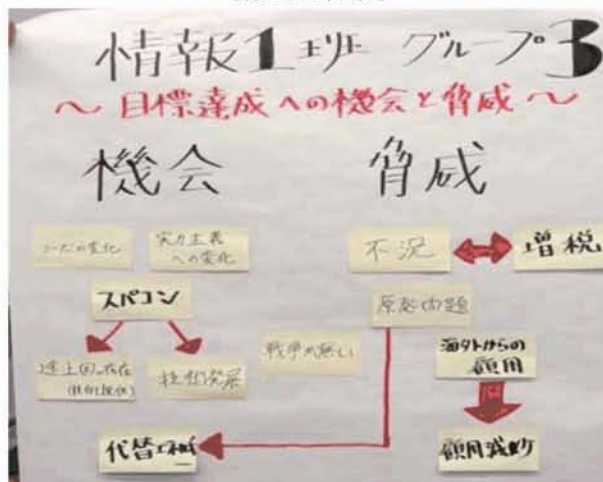
図 6. グループ討議の様子

最終回では、それまでの討議も参考に、各人から「目標・目的達成のために大学生活をどう送るか」の宣言をプレゼンテーションしてもらう。このために、事前に、「プレゼンテーションの基礎」についても解説している。グループでの討議結果の一例を図 7 に示す。

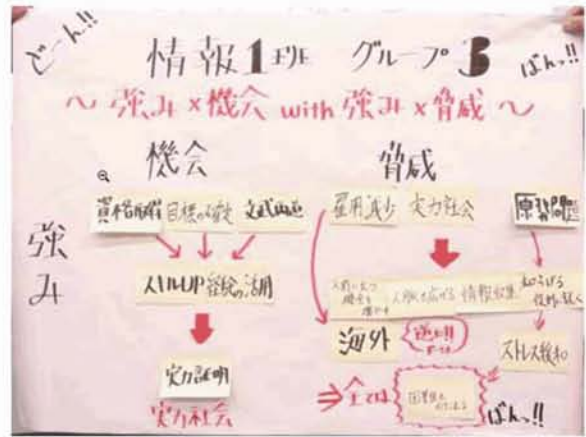
[強みと弱み]



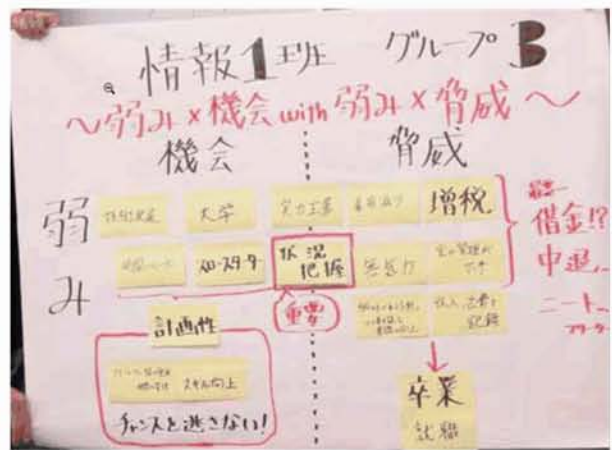
[機会と脅威]



[強み×機会・脅威]



[弱み×機会・脅威]



[目標達成のための取組み案]

| 取組項目 | 目的 | 実行可能性 | 効果 | 緊要度 | my |
|-------------|-------------|-------|----|-----|------|
| 自己管理 科学化 | 自己管理 科学化 | 大 | 中 | 中 | must |
| 計画性 | 計画性 | 大 | 小 | 小 | want |
| 学力向上 | 学力向上 | 小 | 大 | 大 | want |
| 目標の明確化 | 目標の明確化 | 大 | 大 | 大 | must |
| 一石二鳥 | 一石二鳥 | 中 | 大 | 小 | want |
| 機会脅威 | 機会脅威 | 大 | 中 | 中 | want |

図 7. グループ討議の結果

また、人生で精神的に参ることなく力強く生きていって欲しいということで、「信念を強くすることの重要性を中村天風³⁾の「日常の心得」を借りて伝えることにしている。

4.3.2 社会に向けての意見発信

「自分自身の生き方を考える」とことと併行して、自分自身の考えをもつことの大切さの実感と世界を広げる意味もこめ、下記を実施している。

- ① 1年生の5月の連休前に「お世話になった方へ葉書の送付」
- ② 新聞「投書欄」を読み、それに対し賛否を述べる「200字意見文」の作成
- ③ 新聞「投書欄」への投稿のための「500字意見文」の作成

上述①のために「礼状の書き方」の説明を行い、②、③のために、「文章の読み方」、「レポートの書き方」を説明している。投稿については、若者だからこその視点からの内容もあり、実際に掲載されたものもある。その一例を図8に示す。



図8. 高知新聞 2012年8月25日朝刊「声ひろば」

5. 評価

5.1 学生の自己評価

スタディスキルズ受講の前後での学生の自己評価（5点満点、45名の平均）を参考までに図9に示す。書く力、他者理解・自己表現力など全ての項目にて受講後はレベルアップしている。

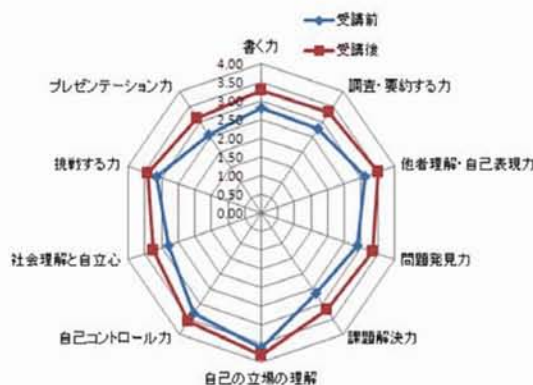


図9. スタディスキルズ受講前後の自己評価

5.2 学生からの声

高知工科大学では、学生が授業を評価する仕組みがある。そこでの学生コメントを、一部、紹介する。

- ・今までにない貴重な体験ができたので、良かった。今後も、この講義で学んだことを活かし、充実した人生を送っていきたいと思います。
- ・自分自身の状態や、強み・弱みを知る良い機会だった。本講義で学んだことをしっかりと今後の学生生活に生かし、講義内で定めた目標をしっかりと一つずつ実現させていきたい。

6. おわりに

スタディスキルズとして、SWOT分析の思考方法を援用し、大学生生活を設計することを試みた。

「大学生生活で想定しうる機会・脅威」や「取り組み案」を学生諸君に議論してもらおうが、教員としてどこまで意見をのべてよいのか、気になるところである。限られた時間の中で、本講義・演習を完結させる必要もある。今後、学生の満足度を上げるのはもちろん、筆者自身の満足度もあげていきたい。

文献

- 1) 島和生：「スタディスキルズ」とキャリア教育体系について」、高知工科大学第3回 キャリア教育シンポジウム、2012
- 2) 宮川公男、「新版意思決定論 基礎とアプローチ」、中央経済、2005
- 3) 中村天風：「盛大な人生」、日本経営合理化協会出版局、1990

Designing of University Life by SWOT Analysis and Contribution to a Newspaper – Trial in "Study Skills" –

Motohiko Igata

(Received: April 30 th, 2013)

Educational Lecturer's Office, Kochi University of Technology

185 Tosayamadacho-Miyanokuchi, Kami, Kochi, 782-8502, JAPAN

E-mail: ¹ igata.motohiko@kochi-tech.ac.jp

Abstract: I got the opportunity to take charge of "Study Skills" for the first grader of Kochi University of Technology. In this lecture and exercise, The SWOT analysis was used as a method to make students consider how to spend four years of University days. Furthermore, I recommended students to write for a newspaper. The purpose of "Study Skills" is to heighten each student's capability required in order to learn actively and survive as a member of society. This paper describes the outline of the SWOT analysis, the method of utilizing the SWOT analysis, the contents of this lecture and exercise, and evaluation.

